

出会い

恵那市教育委員会 教育委員 樋田千史

人生長く過ごしていると様々な出来事に会います。人や物事との出会いがいくつか生まれてきます。

そんな中で心に残っていくものと忘れてしまうものがあります。心に残ることと言えば、人から嫌なことを言われたり、されたりしたことはどういうわけかずっと脳裏に焼き付いています。また、その逆でこちらから言わなければよかったとか、しなければよかったのにと、自暴自棄になってしまい、後悔がつきまとうことがあります。まるでぬれ落ち葉のように。ふとした時に思いだし、そのことを引きずることがあります。思い出さなくてもいいのに、触れなくてもいいのにと思いつつも頭に浮かんできてしまいます。そんな思いをしながら、ある講演会で「嫌なことを考えている時間があつたら、本を読んだり、他のことに思いを寄せて動き出したりしたほうが時間を無駄にしない。」と拝聴しました。まさにその通りで、自分にとっては「いい出会い」でした。

知らなかったこととの「出会い」があります。

3月3日、5月5日、7月7日の節句の日は、どの年もすべて同じ曜日あると知りました。

また、「橋」には出口（終点）と入り口（起点）があると聞き、そうなのと驚きがありました。どちらが出口でどちらが入り口なのか調べてみました。橋には欄干が4本あり、「橋の名前が漢字・橋の名前がひらがな・川の名前・完成年月日」がそれぞれ1本ずつに記されています。入り口は「橋の名前が漢字表記」の方です。何気なく通っている橋ですが、新しい発見「出会い」がありました。

知らなかったこととの出会いは何かしら新鮮味があつて、わくわくします。これから先、いくつかの出会いがあると思いますが、わくわく感を大事に生きていきたいと思っています。

他者との関わりを通して身につく力

揖斐郡養基小学校養基保育所組合教育委員 宮川 敦子

先頃、文部科学省から小学校6年と中学3年の全員を対象に4月に実施した2024年度全国学力テストの結果が公表されました。岐阜県の順位や都道府県別平均正答率、更には地元の小・中学校の結果がいつもながらに気になるところです。

翌日の中日新聞に『自らの考え表現 なお課題 ICT活用校、正答率高く』という見出しで、結果分析が掲載されていました。記事によると、正答率の高い学校ほど、課題解決に向け話し合う学習活動をよく行っているということで、その分析結果に納得しました。

話は変わって、退職後、少し時間ができたこともあり、以前から訪れたかった歴史上の人物と関わりのある鹿児島県を旅行しました。鹿児島と言えば、幕末から明治維新にかけて薩摩藩からは優秀な人材が続々と誕生しています。前々から、なぜ薩摩藩出身者が多いのかと不思議に思っていたのですが、その答えが分かりました。それは、薩摩藩の『郷中教育』という教育システムによるものだったのです。地域を小単位に分けた町内会のような『郷』ごとに、異年齢混合の縦割りグループをつくり、教師がいない中で先輩が後輩を指導するという自治的な教育だったそうです。そこで、重視されたのが「詮議」という手法で、「起り得るが答えのないような問い」を出し、答えを皆で論議し合うのです。これは、薩摩藩が辺境に位置しているということで、いちいち幕府からの指示を待っていたら、仕事が全く進まないもので、現場でぱっと判断できる人を育てるためだそうです。子どもたちが、異年齢混合の縦割りグループで共に教え合う毎日の鍛錬で身につけたのは、「自ら考える力」だったということです。この教育で培われた力が明治維新で大きく開花したことがわかります。

また、関連して異年齢混合グループでの教育の良さについて、最近思うことがあります。4歳になる孫娘ですが、3歳の時、3月生まれということもあって集団に入ることができず、本人の負担にならないようにと家から少し遠いのですが、少人数の幼稚園に入園しました。年中になった今年は、全園児数が8名で、まさに異年齢混合クラスです。しかし、最近になって、全く友達に興味がなかった孫娘から、話の端々に「私はお姉さんだから・・・」という言葉が聞かれるようになり、年少の子に、お姉さんらしい姿を見せなければと頑張る気持ちは育ってきたようです。また、「年長の〇〇ちゃんは、・・・ができるよ。」と憧れをもつようになってきました。まだ、自分を表現することは、苦手のようなのですが、園の友達や先生方との関わりを通して多くのことを学んでいるように思います。

世の中の変化と共に、子どもたちを取り巻く教育環境はどんどん変化していきます。しかし、先人たちが、人づくりのために力をいれてきた教育は、形は変わっても今も引き継がれていると思いました。一人でいるのが楽でいいという子どもたちが増えていると聞きますが、これからの子どもたちには、他者と積極的にかかわり、お互い切磋琢磨して成長してほしいと願うこの頃です。